

**「2022年度 ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」
「モノ(名品)部門」「コト部門」それぞれ地方創生大賞を決定**

—国内の12事業者・団体が集結し
地域に眠る名品、それを支えるストーリーを発掘する表彰制度—

<http://furusatomeihin.jp/>

**「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー受賞名品展示販売・
トークイベント」を開催**

「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」実行委員会(実行委員長:古田秘馬)は、地域の素晴らしさを域外の消費者に直接伝えようとする新たなチャレンジを、より多くの人に知ってもらうことを目的とした表彰制度「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」について、地方創生担当大臣賞となる「地方創生大賞」2名品(入賞10名品から2名品選定)を決定しました。

8年目となる今年度の最終審査会では、増田寛也さん(日本郵政株式会社取締役兼代表執行役社長)、大西洋さん(株式会社羽田未来総合研究所代表取締役社長執行役員)、和田明日香さん(料理家・食育インストラクター)、古田秘馬実行委員長が出席し、審議致しました。

今年度の受賞名品は下記となります。

【地方創生大賞・モノ(名品)部門】

紙布バッグ

HIROSHIMA SHIFU【広島紙布】(広島県廿日市市)



400年以上の歴史を誇り、紙をよった糸で織りあげる伝統織物「紙布(しふ)」と高級レザーを組み合わせた世界初のバッグ。和服・フォーマル・カジュアル等、あらゆるファッションに合い、高いクオリティと「伝統を持ち歩く」という新しいコンセプトを合わせ持つバッグです。

【地方創生大賞・コト部門】
うきは酒宿いそのさわ
株式会社 VILLAGE INC(福岡県うきは市)



おそらく日本唯一の現役酒蔵内に泊まれる蔵人たちの働きぶりを眺めながら自らも酒米になりきり気付けば日本酒の製造工程を学べる体験型お宿。米、水、麴のみで作られる世界でも類を見ないオーガニックなお酒：日本酒を媒介に地域食材を地域人材で提供し、旅人も地元民もスタッフもコミュニケーションを育むローカルツーリズム醸造装置こそ「酒宿」と称しています。

地方創生賞入賞名品

【モノ(名品)部門】

企業・団体名	ふるさと名品名	都道府県	市区町村
株式会社グリーディー	宮城発、香りで始める環境支援	宮城県	仙台市
岩国市	つまんでちょんまげ	山口県	岩国市
LOCAL BAMBOO株式会社	延岡メンマ	宮崎県	延岡市
株式会社テクノボンス	ジャパングレープシードオイル	岩手県	一関市

【コト部門】

企業・団体名	ふるさと名品名	都道府県	市区町村
MeTown株式会社	夕張メロンNFT	北海道	夕張市
一般社団法人SOE	RENEW	福井県	鯖江市、越前市、越前町
山口県阿武町	まちの縁側事業	山口県	阿武町
MOMIJI株式会社	大槌ジビエソーシャルプロジェクト	岩手県	上閉伊郡大槌町

実行委員会特別賞名品

エントリーされたすべての名品において、地方創生賞には残念ながら選ばれなかったが、ふるさと名品オブ・ザ・イヤーの趣旨と照らし合わせ、地域活性のモデルケースとして参考となる優れた取組みを『実行委員会特別賞』として選出いたしました。

【モノ(名品)部門】

企業・団体名	ふるさと名品名	都道府県	市区町村
株シーアグジャパン	日本蜜蜂のハチミツ	鹿児島県	南大隅町

【コト部門】

企業・団体名	ふるさと名品名	都道府県	市区町村
北海道芦別市	「共創のふるさと納税」による地域創生 ～サステナブルな地域づくりを目指して～	北海道	芦別市

ふるさと名品オブ・ザ・イヤー受賞名品展示販売・トークイベントの開催

5月1日から5月31日の1ヶ月間、2022年度ふるさと名品オブ・ザ・イヤー受賞名品の展示販売を実施。展示販売初日の5月1日には2022年度の審査を振り返るとともに受賞名品のPRのためのトークイベントを、展示販売会の告知も兼ねて実施いたします。

<ふるさと名品オブ・ザ・イヤー受賞名品販売>

開催期間:5月1日～5月31日

開催場所:有楽町 micro FOOD & IDEA MARKET

東京都千代田区有楽町1丁目10-1 有楽町ビル 1F

<トークイベント>

展示販売開始初日にトークイベントを開催します。

開催日時:5月1日 18:30～20:00

開催概要:第1部「ふるさと名品オブ・ザ・イヤーを振り返って」

第2部 これからの地域の可能性

登壇者:最終審査員の皆様、ふるさと名品オブ・ザ・イヤー古田委員長 他

※トークイベントの様子はオンラインにて配信いたします。参加の方法は公式サイトにてあらためてご案内いたします。

■「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」について

地域の中には日本全体ひいては海外にも通用する潜在力の高い名品やストーリーがたくさん眠る一方、域外の消費者は、こうした未開拓の資源の存在をほとんど知る機会がなく、また、地域の側もそのポテンシャルをどう伝えればいいのか、戸惑いがあるのが現状です。

「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」実行委員会では、地域の素晴らしさを域外の消費者に直接伝えようとする新たな地域のチャレンジをさらに効果的に、より多くの人に知ってもらうべく、意思を同じくする民間企業が知恵と力を合わせて、地域に眠る名品と、その名品を支えるストーリーや取組を様々な角度から発掘してまいります。

<「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」実行委員会>

実行委員長： 古田 秘馬

幹事社(3社)： JCOM株式会社、株式会社JTB、株式会社テレビ東京コミュニケーションズ

会員企業・団体(9社)：

株式会社インターローカルパートナーズ、紀尾井町戦略研究所株式会社、

株式会社さとふる、日本郵政株式会社、株式会社羽田未来総合研究所、

エコツツェリア協会、楽天グループ株式会社、株式会社AKIND、株式会社10(10INC.)

後援： 内閣府、農林水産省、経済産業省

【ふるさと名品オブ・ザ・イヤー 2022 地方創生大賞、地方創生賞】

それぞれの名品や、名品をめぐる人材・取組が、どれだけ地方の変革に向けた機運を醸成し、その実現に成功したかという観点から選考・表彰する賞。「モノ(名品)部門」「コト部門」の2つのカテゴリごとに地方創生賞を5つずつ用意し、それぞれのカテゴリの最高位を地方創生大賞とする。

応募条件：2022年12月頃までに、地域の特徴を生かした最近3年を目安に新たに販売・発表された名品を対象とします。ただし、販売・発表から数年経てもまだまだ認知のないコト・モノであれば受賞可能と判断する予定です。

選考フロー：一次審査・二次審査・最終審査の三段階の審査を行います。

授賞内容：「モノ(名品)部門」「コト部門」の2つのカテゴリごとに地方創生大賞1点と地方創生賞4点を授賞

【受賞者の権利】

① 受賞名品は、販促機会に「受賞ロゴ」を使用できます。

② 各事業者の特徴を生かした販促機会が(ECサイト無料掲載など)提供されます。(予定)

<報道関係の方のお問い合わせ先>
ふるさと名品オブ・ザ・イヤー実行委員会事務局
大谷：070-1054-7835
佐竹：080-7631-3004
EMAIL: furusatomeihin@jtb.com
時間：月～金9:30-17:30(土日祝 休業)